

職員による自己評価

A環境面

- 室内は決して広いとはいえないが、範囲内で活動できている
- 学習用机は個人単位で用意しているが、若干の小ささを感じる時はある

B児童への支援内容

- SST をベースに、運動プログラムからの学習への切替わりも浸透していると自負している

C関係機関との連携

- 計画見直し時期や児童併用先の事業所との連携、事業所の訪問見学などを行っている

D保護者への説明責任・信頼関係

- 書面にて、月次で事業所情報、週次で活動報告を行いつつ、お迎え時に当日の様子をお伝えしている

E非常対応

- 半年ごとに避難訓練週間を設け、全児童実施している

保護者による評価

A環境面

- 勉強と活動の場を分ける「個別スペース」があると有難いが、スペースを広くするのは難しいかも
- イベントの日は人数によって少し狭いのではないかと

B児童への支援内容

- 日々、様々なプログラムで活動していただきありがとうございます
- 課題を明らかにし、目標が達成できるようにアプローチしていただきありがとうございます
- 運動療法が加わり、同世代のお子さんと意識的に関わる機会が持てて有難いです

C事業所からの情報発信

- その日の様子を口頭で伝えて頂けるので助かる
- ブログで日々の様子がよく分かります
- 6か月毎に面談があり、サポートして頂いています

D非常対応

- 定期的に訓練が行われていて、子どもも避難訓練の理解ができています
- すみません、訓練について理解していないので、何とも言えず、恐らくきちんと訓練して頂いていると思いますが…

事業所内での分析

【共通点】

運動プログラムを取り入れて2年目となる今年度、事故/怪我もなく、支援内容のご支持はいただけていると感じる。また、活動の様子などを、可能な限り細やかに伝えよう心がけており、こちらも一定のご満足いただけていると感じている。

【相違点】

活動スペースに関して、職員の中では、訓練室の広さを考慮したプログラムを提供していると思っていたが、「運動=訓練室が狭い」と感じる方もいらっしゃる事、また、避難訓練実施の状況に関して、まだ若干の説明不足があることも把握できた。

分析・検討してみて…

事業所の強み

日々提供しているプログラムへの強制参加ではなく、これまでも重視していた「自主性」と「肯定」で、意思決定を促しているため、“考える力”も育てている。そして今年度より開始した、中高生に対する進学/就労に向けた「中高生講座」も、大変な期待を寄せられていると感じる。児童一人一人が持つ「個性」を伸ばしていけるよう、職員が同じ方向に向かって支援をしていく。

事業所の改善点

運動を取り入れてからも事故/怪我がなかったのは大きな実績だが、今回ご意見いただいた「活動スペースの広さ」も今一度見直し、非常対応などの説明不足も含めて、より細やかな情報共有と説明が必要。直接的なご指摘はないが、児童が楽しんで継続的に通える事業所であるよう、新たな取り組みも同時に行ってゆく。

事業所の改善への取り組み

日々の朝礼・昼礼・終礼に加えて、毎月開催している職員会議・支援会議等での職員間の詳細な情報共有を継続しつつ、職員同士でも厳しい指摘と研鑽を行う。
他事業所との併用の児童も増えている昨今、連携の強化を図り、一体的に支援出来るようにしていきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケートの結果、概ね評価をいただけているようで、大変な励みになった。毎回の活動の様子の入力作成や、週次でまとめて印刷/配布をすることは簡単ではないが、送迎サービスがなく、その日のうちにお伝えできない分、必要な事であると改めて感じた。これらの積み重ねが信用につながると思うので、PDCA を用いりながら今後も気を引き締めて業務を行いたいと思う。